

約2年半ぶりに、まちづくり瓦版を発行しました！！（年4回発行の予定です。）

白河市小峰城道場門遺構整備竣工記念式典

◆はじめに

去る平成25年4月19日、白河駅前イベント広場と図書館の間に白河市が都市再生整備計画事業にて整備した「小峰城道場門遺構」が完成し、竣工記念式典が開催されました。

式典のレポートと、小峰城道場門についてご紹介したいと思います。（歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致維持向上計画」に位置づけられた事業）



◆道場門とは？

そもそも「道場門」というのは、道場小路等の武家屋敷から城内へ通じる門のことで、小峰城に設置されていた18の門の1つです。また柵形式の門の両側は、城内への進入を容易に許さないよう高さ4mほどの石垣で囲まれ、番所も設置されていたようです。

◆整備の経緯

平成7年～平成11年の複合文化施設建設に伴う発掘調査で石垣と堀が発見され、当時の文献資料に基づき、「道場門」と判明。石垣は復元ではなく、残っている遺構をそのままの姿で残す事とし、露出展示的な整備としました。

門の遺構面は損傷が激しかったため、保護層を設けることで一般公開を可能とし、イベント広場と連携して多くの市民に道場門の歴史的役割を感じてもらおう事としました。

整備期間は平成23年度から平成24年度。事業費は、約66百万円。市街地に残された小峰城唯一の門遺構です。



◆式典



挨拶からテープカットまで、滞りなく執り行われ、渡り初めとなりました。

ここで嬉しいハプニングが。

たまたま散歩中だった近所の幼稚園児も急遽参加。その後、イベント広場で歌まで披露してくれました。



◆あしがき

白河市と言えば「小峰城」。お城から離れた駅前に突如として現れる歴史的遺構。パッと見は変わった歩行空間だなあという印象ですが、お城への門跡と認識すると感慨深いものがあります。

是非、小峰城へ行った際はこの道場門跡を通り、歴史的ロマンに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

かめがもんでん

～都市計画道路亀賀門田線(表町工区)が完成しました～

◆亀賀門田線って？

会津若松市の中心市街地を南北に縦断する幹線道路です。観光地として有名な鶴ヶ城の近くに位置し周辺には官公庁や保育所、小中学校さらには高等学校と多くの文教施設などが集積していることから、多くの方々に利用されている交通量の多い道路です。

「八重たん」

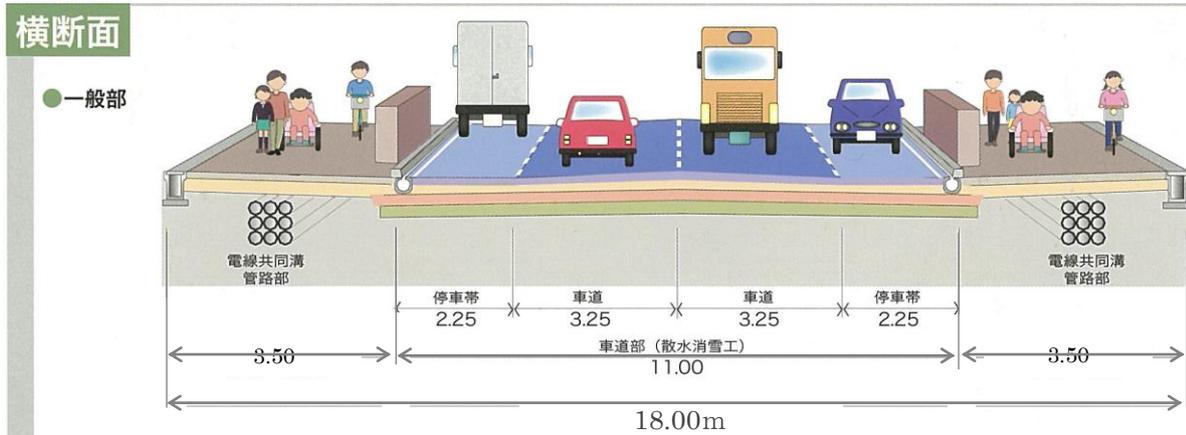


◆どんな工事をしたの？

改良工事前の全幅員は約9mで、そのうち歩道幅員は約1mと歩行者がすれ違うのも大変なほど狭く、車道は慢性的な交通渋滞や頻繁に起こる交通事故など、円滑な交通に支障をきたしていました。

そこでこれらを解消するために平成17年度から事業に着手して、平成25年6月に全幅員18m歩道幅員3.5m（両側歩道）の亀賀門田線（表町工区）が完成しました。幅員を広くするだけでなく、電線の地中化（駅前から国道401号交差点まで【H26 予定】）をおこなって街並みの景観形成や、歩道に無散水の消雪施設を設置することで、冬期間でも路面凍結や積雪のない歩きやすい歩道になりました。

また「錦町・表町 街づくり景観協定」を締結し、まちづくりに地域が積極的に参加することで調和のとれた街並みが形成され、景観に配慮した歩行者にやさしい道路が完成しました。



◆亀賀門田線事業概要

- ・ 期間 平成17～25年度
- ・ 事業箇所 会津若松市明和町～会津若松市表町
- ・ 延長 L=460m、幅員 W=18m（2車線）
- ・ 総事業費 約17億円



◆竣工式が行われました！

平成 25 年 6 月 10 日会津若松市表町において安全祈願祭及び竣工式が行われました。福島県知事の式辞を県土木部長が代読し、柳沼純子県議会土木委員長、室井照平会津若松市長、酒井洋一国土交通省郡山国道事務所長からは祝辞をいただきました。テープカットとくす玉割りを行い関係者や南町保育園児による渡り初めを行いました。

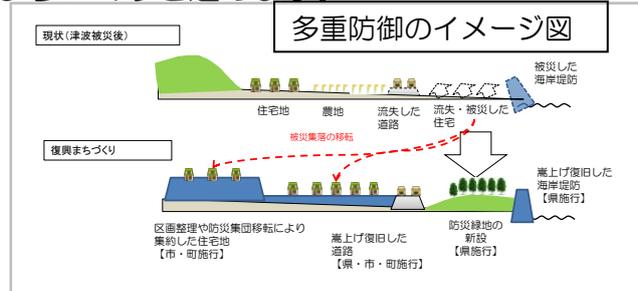


福島県沿岸部の復興まちづくり

◆福島県沿岸部の復興まちづくり

東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸部に千年に一度といわれる未曾有の津波が襲来し大きな被害をもたらしました。福島県では、数十年から百数十年の頻度で発生する津波に対しては、海岸保全施設等の整備による対策とし、千年に一度といわれる今回の津波のような最大規模の津波に対しては、住民の避難、土地利用、避難施設、防災施設等のソフト・ハードの手段を組み合わせた総合的な津波対策を進めることとしています。

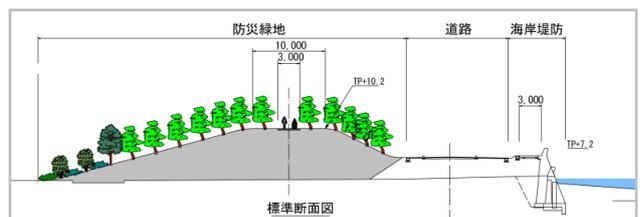
具体的には、避難計画、海岸堤防整備、最大規模の津波に対する防災緑地や盛土構造の道路整備（堤防の背後で補完的に津波を弱める役割）、土地利用の再編などを組み合わせた多重防御による総合的に防災力が向上したまちづくりを進めます。



◆防災緑地

防災緑地とは、海岸堤防などの海岸保全施設の背後地に帯状に整備することで津波の威力を減衰して浸水を抑制することや漂流物を捕捉することにより被害を軽減させる機能を有する都市緑地のことです。福島県では、新地町埜浜地区の他 9 地区に合計 91.4 ヘクタールを整備する計画です。現在は、ワークショップにより地域の方の意見を聞きながら詳細設計を進めています。

防災緑地の標準断面図



◆防災緑地ワークショップ

広大な面積の公共空間となる防災緑地は、日常生活において身近なものとして利活用することや機能を維持するよう樹木を守り育てていくことが必要です。防災緑地を活用し育てていくためには、地域の方が事業の計画段階から参加して愛着を持っていただくことが重要であり、地域の思いを形にしていくワークショップによって地域の方の気持ちを一つにさせていただくことでコミュニティの再生も期待できます。

ワークショップでは防災緑地が将来的な地域資源としてデザインされるようにランドスケープの専門家と樹木の専門家（地元の樹木医）からアドバイスをいただくことにしています。

ワークショップの初回は、自由に意見が出せる雰囲気づくりや防災緑地について理解を深めてもらうことに重点を置いて開催しています。いわき地区のワークショップでは、参加者に防災緑地のイメージを持っていただくよう現地に実際の高さを示した模型を設置してスケール感を共有しました。参加者からは、避難場所の避難経路の表示板を設置してほしいといった安全面に配慮する意見や、ゴミ箱や灰皿は必要ないといった管理面を配慮した意見が出されました。最終的には防災緑地に植栽する樹種の選定やこれからの利活用と管理について意見をまとめることとしています。



防災緑地の模型見学の様子



ワークショップの様子

奥州羽州街道地区産ヶ沢川ホテル親水広場竣工式

◆ホテル親水広場竣工式

去る平成25年6月22日に、桑折町の産ヶ沢川において、「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」で実施しておりました『ホテル親水広場』が竣工し、ホテルの飛び交う時期に合わせて地域の方々が主催して竣工式を行いました！

なお、産ヶ沢川のホテル観賞時期は、6月下旬～7月上旬の予定です。



〔町キャラクター「木ピ-」〕

メールマガジン登録随時受付中!!!

登録された方には、県内外のまちづくりに関する情報のほか、イベントなどのお役立ち情報をメールにてお知らせいたします。

メールマガジン（無料）の登録をご希望される方は



1. 団体・会社名
2. 氏名
3. メールアドレス

1～3を記入の上、[まちづくり推進課のメールアドレス machizukuri@pref.fukushima.lg.jp](mailto:machizukuri@pref.fukushima.lg.jp)まで希望する旨ご連絡下さい。

【発行元】 福島県土木部まちづくり推進課
〒960-8670（住所記載不要です）
TEL 024-521-7511 FAX 024-521-7956
e-mail machizukuri@pref.fukushima.lg.jp
URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>
（「まちづくりイベント・講習会情報」を掲載しているのでご覧下さい）